

(様式第1号)

みなとSDGsパートナー 登録申請書

2022年 11月 28日

国土交通省港湾局長 殿

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第4条第1項に基づき、下記のとおり登録を申請します。

1. 概要

企業・団体名	深田サルベージ建設株式会社
所在地	大阪市港区築港4丁目1番1号
代表者役職・氏名	代表取締役社長 山本寿生
担当者連絡先	電話：06-6576-1871
	メール： seki.naoto@fukasal.co.jp
ウェブサイトURL	http://www.fukasal.co.jp


















2. 港湾関係企業等としての事業の概要


















当社は、1910年(明治43年)に広島県呉市において、主に旅順港周辺の沈没船引き揚げや解撤を事業とした「深田海事工業所」として創業し、1949年(昭和24年)に「深田サルベージ株式会社」として設立。1988年(昭和63年)に鉄構土木関連への事業活動を一層促進するため社名を現在の「深田サルベージ建設株式会社」とした。現在は、サルベージ事業、鉄構工事事業、海洋土木事業、海洋開発事業、洋上風力発電事業、曳航輸送事業を行い、「海」を舞台に総合海事企業として活動している。

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標
✓環境 □社会 ✓経済	CO2排出量/Scope1 + 2関連指標	2018年度を基準に20%以上の削減 (※2018年を100として現状96)
□環境 ✓社会 □経済	安全環境活動の推進 労働災害の撲滅 海洋汚染(油流出事故) 生物多様性への取り組み	労働災害 現状1件→ゼロ 油流出事故 現状0件→継続 生物多様性への取り組み 現状1件→3件
□環境 ✓社会 □経済	ライフワークバランスへの取り組み 女性活躍推進への取り組み 健康経営	有給休暇平均取得日数 現状10.3日→14.0日 育児休暇取得後の復職率 現状100%の継続 女性役職者比率 現状7.0%→10% 健康診断再検査受診率 100%
✓環境 ✓社会 □経済	コンプライアンスの徹底 ガバナンスの強化 リスクマネジメントの強化	コンプライアンス教育の徹底(ガイドブック) 監査・内部統制の更なる強化 情報セキュリティの更なる強化、BCPの継続的見直し

(次項へ続く)

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
8	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	「人を育てる」「技術を磨き、繋ぐ」「幸福な会社にする」をビジョンに掲げ、人材(財)育成は企業の持続的かつ長期的発展のための重要課題として取り組んでいる。社員一人ひとりの向上心と成長が会社全体の成長に寄与し、そして社会への貢献にも繋がる重要な基盤であるとの認識のもと、業務に関わる推奨資格の取得に際しては、所定の条件を満たすことでその取得にかかる受験料や登録費用、講習会費用、交通費などの全額を支援する制度を設け、取得者に対しては、資格手当やお祝い金等を支給して、社員の能力向上とモチベーション向上を積極的に応援している。HRtechなどのIT技術を導入し、社員の人事情報をデータベース化して社員のスキルや経験を可視化し、人材開発や育成に役立っている。				4	5.5			8	9								
	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している					5.5			8.5		10.2 10.3								
	【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	全国健康保険に「健康宣言」を行い、健康経営を推進している。健康診断後に産業医による面談を実施し、従業員への健康指導を実施している。有所見者には衛生管理者より再検査を推奨し、二次検診受診率100%を目指している。			3					8									
環境	【3Rの推進】 ・事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行う等、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進に取り組んでいる	産業廃棄物処理状況報告書を適正に報告。エコキャップ回収運動を推進しNPO法人へ提供し、医療支援や障がい者支援、子供たちの環境教育の活動へ充てている。また、余剰となったカレンダーなどをNPO法人へ寄付し、収益金を福祉活動へ役立っている。										11.6	12.4 12.5		14.1				
	【エネルギー】 ・自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている	全拠点の電力使用量を把握して効率化を推進している。							7.3					13					
	【温室効果ガス】 ・自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出量の削減を進めている	当社は、CO ₂ などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の生活の中で、あらゆる「賢い選択」をしていこうという環境省の取組み「COOL CHOICE」への賛同を行い、全拠点で温室効果ガスの削減を推進している。現時点は、Scope1+2関連指標までを把握し、2018年/2021年比△4%							7.2 7.3				12.4	13.3					
	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	SDSに従った適正な管理を実施している。			3.9		6.3					11.6	12.4						
	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	船舶による油流出事故での油回収や防除を行って、生態系の保全に力を入れている。きれいな海を守るため、ビーチクリーン活動に参加し海洋プラスチックやゴミを取り除くボランティア活動を行っている。NPO法人のBLUE BEACH PROJECTに協賛の他、沖縄さんご養殖活動のスペシャルサポーターとして活動を支援している。					6.6									15			

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
16	【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	全拠点の水使用量を把握して利用効率の改善を推進している。						6.4 6.6											
17	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、または同等の環境マネジメント規格を取得している				3.9			6	7				12	13.3	14	15			
18	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	HPやCSRレポートで取り組みを開示している。											12.6						
19	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	太陽光パネル設置などによる再生可能エネルギーの利用を行っている。							7.2					13					
20	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	グリーン調達と3Rの推進に取り組んでいる。											12.2	13	14	15			
21	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	品質マネジメントシステムISO90001を取得し運用している。			3.9								12.4						
22	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	品質マネジメントシステムISO90001を取得し運用している。CSR基本方針の一つとして「最適なサービス提供」を定めている。行動指針には「お客様の満足」を得られるよう最良のサービス提供について定めている。																9	
23	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	海難事故対応では油や危険物質の流出による二次被害を防ぎ、油流出の事故ではその回収や防除を行って環境への影響被害を考慮した対応を行っている。						6					12	13	14	15			
24	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	「海と人の未来のために」を経営理念とし、その時代の社会が要請する社会課題に取り組んでいる。現在認識する社会課題は、「気候変動による自然災害の激甚化」、「海洋事故・遭難」、「資源エネルギーの枯渇と地球温暖化による気候変動」、「海洋汚染」、「人口減少・高齢化社会」、「社会資本の老朽化」の6つで、当社が行う5つの事業でその解決に向けて取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

カテゴリ	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
																						
25	【地域への配慮】 ・ 自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	海を舞台として事業活動を行っており、油の流出、廃棄物、騒音、事故などにより、地域に与える影響がないように最大限の配慮と対策を行っている。一方、災害時における当社の事業活動を活かした人命救助やインフラ復旧への応急対策、救援物資の輸送などの災害時応援協定を自治体と結んで貢献できるように対応している。				4						9		11	12		14	15				17
26	【社会貢献活動】 ・ 寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	社会貢献活動として、ビーチクリーン活動への参加やNPO法人の活動に協賛、沖縄さんご養殖活動のスペシャルサポーター、マラソンや水泳などのスポーツ活動協賛、小学生への社会人講師、NPO法人とのエコキャップ運動やカレンダー寄贈、海難遺児への奨学金などを行い、医療支援や障がい者支援、子供たちへの環境教育や自立支援に取り組んでいる。また、海上保安庁や警察の保安対策訓練などへの船舶の提供や参加を行っている。				4								11			14	15				17
27	【地域資源】 ・ 地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している											8	9		11	12	13					

SDGs達成に向けた取組及び指標の進捗状況報告書

国土交通省港湾局長 殿

所在地： 大阪市港区築港4丁目1番1号

名称： 深田サルベージ建設株式会社

代表者： 山本寿生

登録年月日： 令和4年12月23日

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第7条の規定により、下記のとおり進捗状況を報告します。

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標	指標の進捗状況
✓環境 ✓社会 ✓経済	CO2排出量/Scope1 + 2関連指標	2018年度を基準に20%以上の削減 (※2018年を100として現状96)	13%削減
✓環境 ✓社会 □経済	安全環境活動の推進 労働災害の撲滅 海洋汚染(油流出事故) 生物多様性への取り組み	労働災害 現状1件→ゼロ	2022年度0件
		油流出事故 現状0件→継続	0件継続中
		生物多様性への取り組み 現状1件→3件	現状1件
□環境 ✓社会 □経済	ライフワークバランスへの取り組み 女性活躍推進への取り組み 健康経営	有給休暇平均取得日数 現状10.3日→14.0日	2022年度9.8日
		育児休暇取得後の復職率 現状100%の継続	100%継続
		女性役職者比率 現状7.0%→10%	8.4%
		健康診断再検査受診率100%	2022年度48.4%
□環境 ✓社会 □経済	コンプライアンスの徹底 ガバナンスの強化 リスクマネジメントの強化	コンプライアンス教育の徹底 (ガイドブック)	コンプライアンス教育の 実施(2022年度144名)
		監査・内部統制の更なる強化	監査・内部統制の更なる 強化
		情報セキュリティの更なる強化、 BCPの継続的見直し	情報セキュリティの更なる強 化、BCP最新版作成実施